教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京薬科大学大学院 薬学研究科
教育プログラム・コース名	臨床腫瘍専門薬剤師養成コース（正規課程）
対象職種・分野	薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コース大学院生
修業年限（期間）	４年
養成すべき人材像	①がん薬物療法とその支持療法、さらには緩和ケア（非がん疾患の緩和ケアとの比較も含めて）を理解し、薬学手的視点から臨床腫瘍学分野における最新の知見を踏まえたがん薬物療法と緩和ケアを実践できる薬剤師 ②患者のライフステージ（小児、AYA世代、高齢者など）、療養環境（在宅、緩和ケア病棟、外来、就労など）におけるがん薬物療法について理解し、処方提案や職種間連携体制を構築できる薬剤師 ③職種横断的な部門の構成員として、がん治療を俯瞰しマネジメントを行うことができる薬剤師
修了要件・履修方法	各自の専門領域必修科目および下記の追加必修項目を含めて、３０単位以上を履修し、学位論文を提出の上、審査、最終試験に合格すること
履修科目等	＜必修科目＞がん薬物療法の実習（連携大学医学部付属病院における見学実習：ただし社会情勢により実施できない場合は相当内容の講義に変更）２単位を含む所属分野の必修２６単位 ＜選択科目＞薬学基礎、医薬品情報学、薬物療法学（がんの生物システム学、緩和医療概論、緩和医療実践、がん化学療法を含む）から４単位
がんに関する専門資格との連携	日本医療薬学会に対し「がんに関する講習会・教育セミナー」に認定されるよう申請し、がん専門薬剤師単位認定に必要なクレジット発行の資格を得る予定である。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	学生の指導にあたる教授陣は現在も定期的に関連病院へ定期的に出向し、臨地で薬剤師としてチーム医療に参画している。したがって、本コースを受講する学生は、がん領域における高度な臨床知識を有し、極めて専門性の高い緩和ケア領域での薬物療法に精通した人材として育成される。さらに本プログラムを終了した学生が、臨床腫瘍学領域における適切な薬物療法を普及させるため臨床現場で後進の指導を行うことで、入院から在宅療法に至るシームレスな薬物療法を担える薬剤師を養成できることが期待される。
指導体制	本学大学院の臨床腫瘍薬学分野を中心に、がん専門薬剤師の資格を有する教授を含めた当該分野の指導教員が指導を行う。
修了者の進路・キャリアパス	がん専門薬剤師 がん薬物療法認定薬剤師 緩和薬物療法認定薬剤師
受入開始時期	令和６年４月

受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10

受入目標人数設定の考え方・根拠	薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コースに例年所属を志願すると見込める大学院生の人数より、受入れ目標人数を毎年2名と設定した。

履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2					2